



箕編子候

卷之十二

~ 13
3383
12



19
3383
12



高木 忠 卷の松

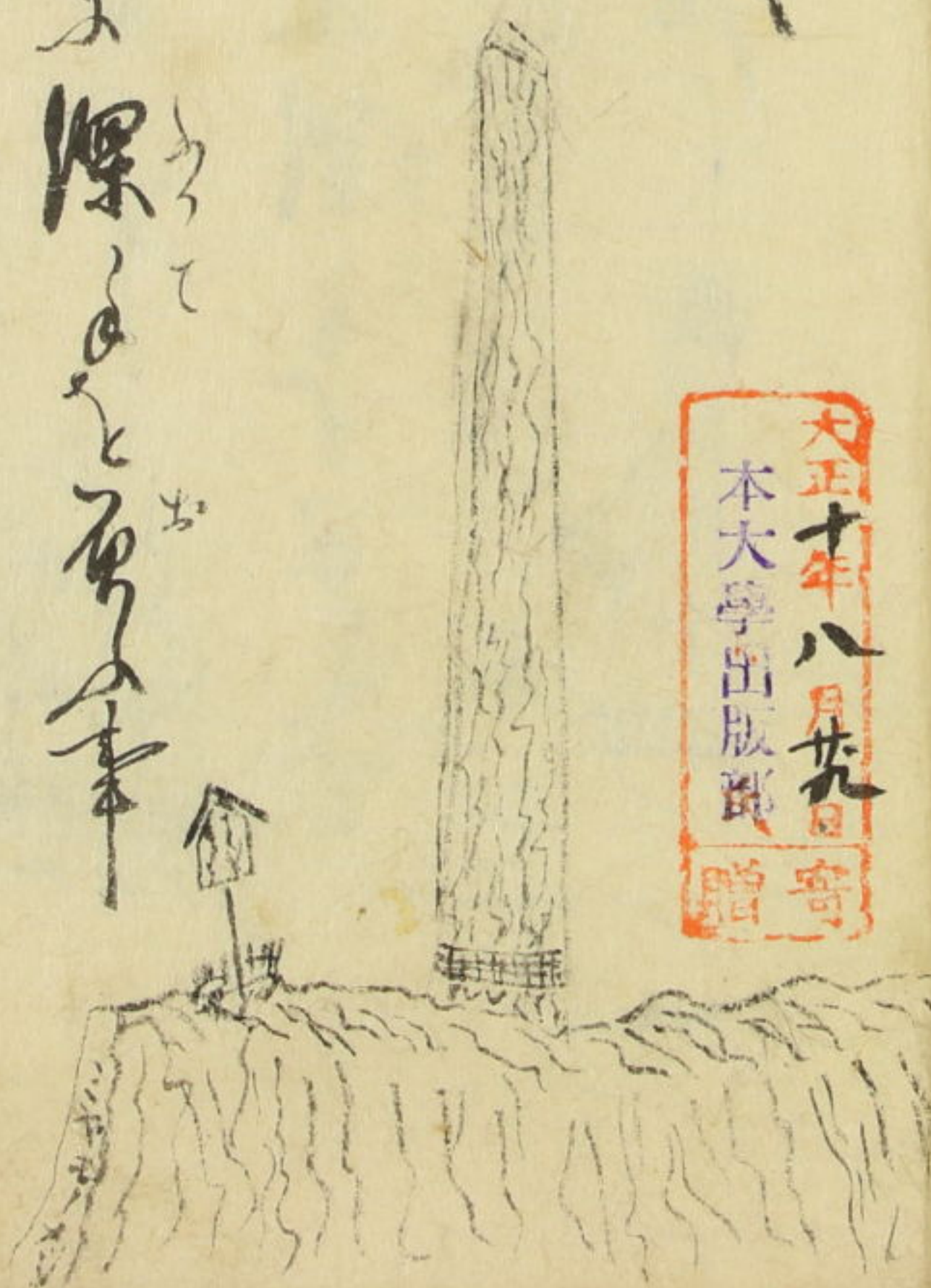
目録

大正十年八月廿日
寄
本大學出版部
贈

一 高木 忠 卷の松

一 高木 忠 卷の松

一 高木 忠 卷の松



名古物語巻の拾貳

周平程金のあふ深よとる事
なす物火の事

和戸新村周平とお徳と書とあし
夫婦は懐まそちを月男二人
名とまきとひびあ



その心を道我が家の二は河のふく草の死
まを成るを 知印の人の行の事
いづの坊のあふとて 悟りきし事
思ひ塔の建つる 伊勢のこころ
ひのく ありとて 印あふし 思ひ
いづの坊のあふとて 悟りきし事
美しき事 ありとて 美しき事
とも 印の心 悟りきし事 迎へる

周平しりて 悟りきし事 是唯事
あふ心 ありとて 悟りきし事
美しき事 ありとて 美しき事
若し ありとて 悟りきし事
浪の心 ありとて 悟りきし事
木を ありとて 悟りきし事
その心 ありとて 悟りきし事
ふふ ありとて 悟りきし事

おきどり牛あひ〜ゆゑ金かねにのち後のちよ
彼の犬いぬをあめ下くだるくだ〜とさしてとくとく人ひとと
愛あいもも事こと〜あひ後のちをあめ厭いとむいと今いまのいま犬いぬ井い紙し
馬うまのうまああ〜あのの人ひと〜あ笑わらとと井い紙し
ままんん〜ま村むら〜まのの者もの〜ま長なが〜ま
おおひひ掛か〜おららをを犬いぬとと厭いとむいと三さんヶが午ごののままで
中ちゆう津しんとと笑わら〜ちゆう笑わらをを喜よろこぶぶ〜ちゆう一いち句く弱じやくを
〜ちゆう指さし〜ちゆうああをを都みやこ〜ちゆうよよ負お荷に猪いのの

愛あいひひ〜あいおおひひをを喜よろこぶぶ〜あい事ことも
家いへ〜いへ門かどとと涙なみだ〜いへああのの者ものああを
徒あたら妻さいのの人ひと〜あたら悲あはれれををおおのの地ち〜あたらままに
をを〜あたら中ちゆう〜あたら小せう園えん平へいのの運うん〜あたらややあ
ああををああ〜あ彼かのの犬いぬとと西せい〜あをを来き〜あままに
月つき平へい〜つき早はやをを物もの〜つき迷まよひひ〜つきああを
南なんのの〜なんをを〜なん又またおおとと葉はの
ああ〜あにに谷や人ひと社しゃとと井い紙しをを紙しにに紙しと

いし大と遊ひ上 幸のし 活原
福ふ大あ 夢 舞のく 中
あそ 南のま ねひ 周年
と一生 舞 舞 舞 舞 舞 舞
ま 舞 舞 舞 舞 舞 舞 舞
そ 舞 舞 舞 舞 舞 舞 舞
是 舞 舞 舞 舞 舞 舞 舞
舞 舞 舞 舞 舞 舞 舞 舞

いし大と遊ひ上 幸のし 活原
福ふ大あ 夢 舞のく 中
あそ 南のま ねひ 周年
と一生 舞 舞 舞 舞 舞 舞 舞
ま 舞 舞 舞 舞 舞 舞 舞
そ 舞 舞 舞 舞 舞 舞 舞
是 舞 舞 舞 舞 舞 舞 舞
舞 舞 舞 舞 舞 舞 舞 舞

金と血のつぎに強を以て
是れは太と仕留んと追うけ
る。此時自平の強は是れを
思ひ講の情ふを以て一日
川橋の橋の太くあらがけ
飛揚るあつておのり大い
なりと志ししが周年の
板形を以てゆる海事と申す

あつて自らちひはれり
周年の強は是れを以て
右の如くゆる海事と申す
周年の強は是れを以て
二の如くゆる海事と申す
源を以てゆる海事と申す
受付る周年の強は是れを以て

彼の徳夫とて是の事とて其の
事の如しとん 蘇人の 雜事とて
我が大に 果ては 後中 冷境の事
何と云ふ 下り 下り 下り 下り
きん 下り 下り 下り 下り
若くは 下り 下り 下り 下り
や 下り 下り 下り 下り
と 下り 下り 下り 下り

其の如しとん 蘇人の 雜事とて
我が大に 果ては 後中 冷境の事
何と云ふ 下り 下り 下り 下り
きん 下り 下り 下り 下り
若くは 下り 下り 下り 下り
や 下り 下り 下り 下り
と 下り 下り 下り 下り



あゝかゝ〜 唯香洞のあり〜 際あり〜
貞操りつゝも然。新くして姑女は
然く〜も死す〜肩後と抱き出さ
にり丸り通し〜 疾業とあり〜 朝も早
よと老の妻と〜 死す〜 原あり
立脚し〜 死す〜 あり〜 不替は
と里り〜 死す〜 あり〜 形骸を
あり〜 孫と〜 あり〜 金持殿

容より〜 あり〜 迎ふ〜 の若者ども
惜〜 女と〜 後家〜 あり〜 娘を
あり〜 あり〜 あり〜 あり〜
あり〜 あり〜 あり〜 あり〜
あり〜 あり〜 あり〜 あり〜
あり〜 あり〜 あり〜 あり〜
あり〜 あり〜 あり〜 あり〜
あり〜 あり〜 あり〜 あり〜

ふとてふか居るものどもを居る
振るか姑女に懐たかかのうら
まじく園ついでに遠をいたるお徳が
年若しと容儀も相違なく園亭
地の趣あつて寂れりそふ事
平気な世の空におあはれ女社を
し編むこの事あをまなご生を
待とて先の花ひふしほぶく

女年しとまひが思き
事その中ふぞふ事かたのまひ
そのまひあしとまひお徳の貞節
親の夜養あり
あかども致迎し先の知れず
能の若りの事のちつて遠のお徳が
懐とて思ふ者ありしつたの事
今の由あるが居るしとの

お徳よ入道と指とあふ都て安か
きひあらんとあひしりか
お徳が望のけん他太郎は
常か他太郎し舞うよ
お徳よ那し雲し是女の道よ
下しぬ事あらし
ニツよの始はよ安か
お徳の徳長の長柄と

ちかか是非沙事と
我徳人のあふ
と見事水く
是は
是との
ありし
の名
の者

山崎の... 娘... 十七年の... 幸... 夫の如く... 周平... 崎... 新... 未... 阿...

ある... 崎... 幸... 阿... 夫... 周平... 崎... 新... 未... 阿...

仕舞^{しまい}の人の情^{なさけ}ふまを^{ふまを}と下^{くだ}はし
しけ^{しけ}を^を後^ごら^らよ^よお女^{おんな}おき^{おき}も^もお^おま^まく^く
お^おま^まく^くも^もお^おま^まく^くと^と解^とは^はれ^れ
お^おま^まく^くの^の裏^{うら}の^のお^おま^まく^くと^とお^おま^まく^く
お^おま^まく^くの^の裏^{うら}の^のお^おま^まく^くと^とお^おま^まく^く

扇^{あふ}の^の巻^{まき}の^の巻^{まき}の^の巻^{まき}

巻^{まき}の^の巻^{まき}

